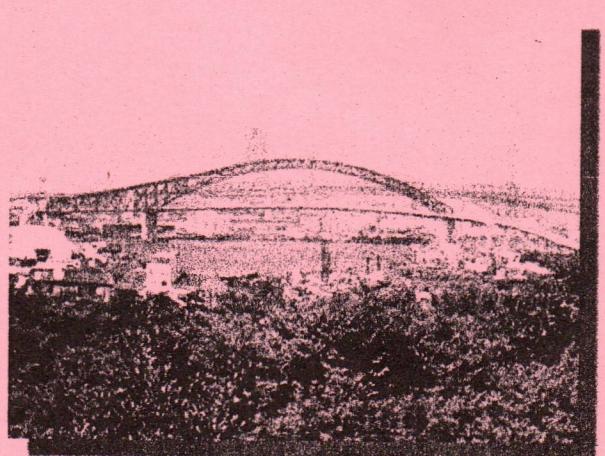
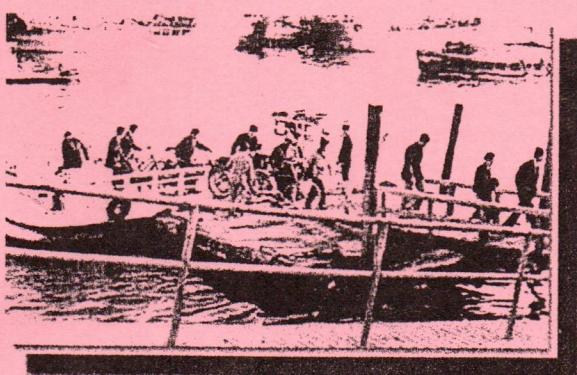


大正区の歴史



大正区役所

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
推古	元	592	四天王寺建立	
大化	2	646	大化の改新詔・難波子代宮	
白雉	2	651	孝徳帝、難波長柄豊崎宮遷都	
天平	16	744	聖武帝、難波宮を皇都とする	
天平勝宝	4	754	唐僧鑑真、難波へ来着	
延暦	13	794	平安京遷都	
嘉祥	3	850		八十島祭初見
延喜	元	901	菅原道真、大宰府左遷	
治安	3	1023	藤原道長、四天王寺参詣	
大治	2	1127	白河上皇、四天王寺参詣	
保元	元	1156	渡辺党、源頼政軍へ参加	
建久	元	1190	源頼朝、四天王寺参詣	
元仁	元	1224		八十島祭最終見
嘉禎	3	1237	藤原家隆、四天王寺にて没	
暦応	元	1338	北畠顕家、足利幕府軍と摂津の渡辺・天王寺で戦闘	
応安	2	1369	摂津難波荘・木津浦と境相論	
応仁	元	1467	応仁の乱	
明応	5	1496	蓮如、生玉荘に石山御坊建立	
	6	1497	蓮如の消息に地名「大坂」が初見	
嘉禄	3	1530	細川高国、摂津の勝間・天王寺・今宮・木津・難波に陣構え	
元亀	元	1570	石山本願寺、織田軍を攻撃	
天正	4	1576		毛利水軍、織田軍の兵船を木津川口で破り、石山本願寺内に兵糧を運ぶ
	6	1578		織田方・九鬼水軍の安宅船が大坂を海上封鎖し、毛利水軍を木津川沖で撃破
	8	1580	教如大坂退去	
	11	1583	秀吉はじめて大坂入り	
	13	1585	大坂城本丸完成	
慶長	元	1596	大坂城惣構堀工事完了	
	3	1598	秀吉没	中村勘助、木津川尻の姫島に豊臣家の軍船係船所を建設、堤防を築いて田畠を開発。豊臣家より「勘助島」の名が与えられる(現在の三軒家)
	8	1603	家康征夷大將軍就任	三軒屋、大坂防御軍守衛地となる
	15	1610		松平忠明によって神明社(日中の神明社)が京都西院より中央区内平野町へ遷座される
	19	1614	大坂冬の陣	
元和	元	1615	大坂夏の陣、豊臣家滅亡	
	2	1616	大坂城下の町割が進み、船場を北組南組に分立	
	5	1619	大坂船手に小濱光隆を任命	下の八坂神社勧請
	6	1620	大坂城再築第1期工事完了	三軒屋に真宗大谷派の専称寺建立
寛永	2	1625		中村勘助、木津川を浚渫。幕府より入津料・白米5合の収得を許される
	5	1628		勘助、上の八坂神社勧請
	7	1630	住友家大坂で銅商開店	川口三軒屋の遊郭禁止。新町遊郭に纏め本願寺派万福寺を専称寺の北側に建立
正保	4	1647		
明暦	3	1657		
万治	2	1659		

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
寛文	5	1665	幕府、淀川・木津川・大和川を巡視 【大坂三郷人口26万人余】	大坂船手2員制 大番組頭・高林直重、勘助島に居住。船番所は勘助島にあり(～1683年まで)
延宝	12	1672		呑海寺建立
	3	1675		この年発行の『芦分船』によれば三軒屋は「次第に人家が満ち満ち軒を並べて繁栄して、旅泊の船出入り繁く」とある
貞享	元	1684	河村瑞賢、九条島を開削工事。1698年に竣工し安治川と命名	大川改修で天満の替地を三軒屋に設定。舟津町・川本町・白井町として大坂三郷に編入
元禄	12	1699	竹本義太夫、道頓堀で竹本座創設	河村瑞賢、難波島を開削工事。木津川の水流を改良し、西側を難波島・東側を月正島と称す
				泉尾神社創建
	15	1702		泉州国踞尾村・北村六右衛門、泉尾新田を開発
宝永	4	1707	宝永の大地震 M8.4	泉尾新田検地
	5	1708	鴻池新田完成	開発に伴う慰靈のため、了照寺建立
享保	2	1717		泉尾新田堤防決壊
	15	1730		安治川・木津川の川口浚え(沖浚え)実施
宝曆	13	1763		木津川に遠見番所設置。お船蔵は元禄年間、既に番所の西にあり
明和	14	1764		木津川・大和川の浚渫決定
	5	1768		安治川・木津川の川口浚え
	8	1771	摂河泉にお蔭参りが流行	炭屋三郎兵衛、炭屋新田を開発
安永	3	1774	京坂大風雨	第11回朝鮮通信使、尻無川遡上
天明	元	1781		岡島嘉平次、数回に渡り千島新田を開発
文政	12	1829		平尾与左衛門、平尾新田を開発
天保	2	1831	安治川お救い大浚え	川口で多数の船転覆。1200人余水死
	3	1832	天保山完成	両川口の川浚え実施
				岡島嘉平次、南恩加島新田を開発
弘化	7	1836		岡島嘉平次、北恩加島新田を開発
安政	2	1845		岡島嘉平次、小林・岡田新田を開発
	元	1854	安政の大地震 M8.4	舟運のため、木津川口に870間の石堤を築き、松を植える(千本松)
				木津川口お救い大浚え
				産土神社(在:小林)創建
				天満宮(在:南恩加島)創建
				岡島嘉平次ら、千歳新田を開発
				道頓堀・木津川の被害甚大 大正橋東詰に『大地震両川口津波記』の石碑建立
				木津川口は40艘余の番船、木津川沿岸には紀州兵など2600人で警戒
				幕府、大坂城代・土屋寅直に安治川口・木津川口への台場建設を指示
文久	3	1856		幕府、高松藩に木津川口台場の警備命令
	4	1857		土佐山内藩が木津川口を、美濃苗木藩が木津川船手番所を警備
	3	1863	將軍家茂が大坂入り。34諸侯に大坂警備を命じる	
元治	元	1864	大坂船手廃止	
慶応	元	1865	將軍家茂、征長のために大坂入り	
	2	1866	將軍家茂、大坂城で没す	
	3	1867	將軍慶喜、大政奉還	

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
明治	元	1868	鳥羽伏見の戦い 大坂城炎上 醍醐忠順、初代大阪府知事に就任 川口居留地競売・大阪港開港	
	4	1871	廃藩置県 藏屋敷廃止	当区は西成郡第2区、北部は2番組・南部は4番組となる 泉尾小学校・三軒家小学校開校
	5	1872	郡部・区長戸長制度実施	尻無川下流に遊泳場を設置。小学生水泳訓練 大阪府、三軒家に倉庫10棟を持つ「船囲い場」(178000坪)を開設
	8	1875		波沢栄一らが三軒家に大阪紡績(後の東洋紡績)開業、『東洋のマンチェスター』の基礎を作る
	11	1878		藤永田造船所が千島に開業。以後、木津川を中心に工場が続々と開業(栗本鉄工所etc...)
	14	1881	板垣退助、戎座で政談演説会	当地は三軒家村と川南村の一部となる 曾根崎警察署三軒家分署設置
	16	1883	造幣局、桜の通り抜け始まる	
	18	1885	淀川堤防大決壊	
	22	1889	大阪市発足。参事会制で市長は不在	大阪市編入。西区に属する
	27	1894	日清戦争	鶴町・福町(明治38~大正3)、船町(明治38~大正15)を中心に埋立(247万坪)
	30	1897	大阪市第1次市域拡張 大阪市築港工事開始(～昭和3年まで大阪港第1次修築工事)	三軒家は2町、他はほぼ新田名どおり設定
	31	1898	田村太兵衛、初代市長に就任	泉尾土地設立(北村銀行破産による)
	33	1900	町名大改正	
	35	1902	大阪ガス論争(民営か公営か)	
	36	1903	市内河川巡航船開業	大火の罹災市民延べ22000人、南恩加島の施設に収容
	37	1904	日露戦争開戦	西大阪最初の問屋市場「三泉市場」開設
	38	1905	大阪ガス供給開始	千島土地設立
	42	1909	北の大火	小林斎場開設
大正	44	1911		大戦ドイツ捕虜760名、大阪俘虜収容所(北の大戦と同一施設)に収容(大正6年広島へ移動)
	45	1912		木津川焼却場開設
	2	1913	東海道本線全線複線化	泉尾第2(北)小学校開校
	3	1914	第一次世界大戦勃発	千歳運河開削
	4	1915	天王寺動物園開園	大正橋架橋
	5	1916	【大阪市人口150万人】	市電、岩崎橋⇒日吉間を開通
	6	1917	天保山運河開通	大阪製鉄開業
	7	1918	米騒動 中央公会堂竣工 方面委員制度(のちの民生委員)発足	三軒家第3(西)小学校開校 木津川運河開削 八坂神社境内に中村勘助顕彰碑建立 久保田鉄工、恩加島に工場開設 市電、大正橋⇒木津川運河間を開通 大阪木材土地(株)創立。西区の西道頓堀・西長堀などから木材業者集団移転し小林町・千島町一帯は西日本有数の木材市場となる

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
大正	8	1919	大阪市児童相談所開設 渡船が市の管理下となる	大正運河開削開始(大正12年完成) 福町堀開削 鶴町に大阪市初の市営住宅建設 鶴町に託児所の設置 泉尾警察署発足 岩田土地設立 造船所、木津川筋32社・尻無川筋に16社群立 岩崎運河開削と岩崎橋の架橋
	9	1920	第一回国勢調査	市電、大運橋 ⇄ 鶴町4丁目間を開通
	10	1921	市庁舎が中之島に移転・新築 大阪最初のメーデー グリコ発売	泉尾高等女学校・鶴町小学校開校 泉尾振工会(工業会の前身)発足 鶴町公設市場開設
	11	1922	大阪市婦人連合会結成 大阪体育協会結成 天保山桟橋竣工	北恩加島小学校・泉尾工業学校開校 泉尾公設市場開設 岩松橋架橋
	12	1923	関東大震災 関市長就任	市電、小林町 ⇄ 鶴町4丁目間を開通 南条病院(のちの大正病院)開設 船町に木津川・7大阪飛行場が開設。日本航空 (川西系)の拠点空港として陸上・水上の両機能 備える 鶴町市電車庫開設
	13	1924	甲子園野球場竣工	中山製鋼所、船町で開業 南恩加島小学校・中泉尾小学校開校
	14	1925	第2次市域拡張。4区から13区へ	神明神社、中央区より鶴町1丁目へ遷座 西区から港区が分区(当区は港区に属す) 三軒家・泉尾地区の下水道管敷設完了
	元	1926	御堂筋起工式	市電、三軒家 ⇄ 新千歳間を開通
	2	1927	大阪ばい煙防止調査委員会設置	日本ゼネラルモータース社、鶴町1丁目に開 業。昭和16年までに約8万台を生産
	4	1929	世界恐慌始まる 日本航空、東京 ⇄ 大阪 ⇄ 福岡の定期旅客輸送を開始 第1次築港事業完了 阪急百貨店開業	大阪(木津川)飛行場開設(約39万m ²)、日本初 の公用空港。日本航空輸送等が名古屋・東 京・福岡・大連・上海等へ航空路線。年間発着 回数8800回・年間旅客1万人(昭和13年)。14 年伊丹飛行場へ陸上飛行場機能移設され、水 上機専用飛行場化 泉尾幼稚園開設
昭和	5	1930	地下鉄御堂筋線起工式 高島屋南海店開店	日本ゼネラルモータースで労働争議 区内初の市バス、野田阪神 ⇄ 鶴町間の運行開 始
	6	1931	大阪城天守閣再建	港区から分区し、大正区が成立(15区制)
	7	1932	大阪市渡船事業直営化	大正区歯科医師会・薬剤師会の創設
	9	1934	室戸台風来襲。市域の3割冠水、死者946人・被災者78万3千人	最大風速48m/s。区内全域冠水、死者119人・被 災者12万3千人 北恩加島小学校で校舎倒壊、9人死亡
	10	1935	大阪港復興修築工事着工 【大阪市人口299万人】	大正消防署、小林に新設 木津川飛行場で煙霧による飛行機墜落事故発 工業生産高が機械・金属工業を中心に市内2位 へ(従事者数22000人)

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	11	1936	市立美術館落成	可動橋の大船橋を架設
	12	1937	御堂筋竣工 電気科学館開館	大浪橋架設
	13	1938	校区町会連合会組織発足	大正区12連合、134町会
	14	1939	警防団結成	中山製鋼所新溶鉱炉完成 【大正区人口15万2000人】
	15	1940	大政翼賛会結成 【大阪市人口325万人】	木津川・尻無川の防潮堤完工
	16	1941	太平洋戦争開始	東洋紡績軍需工場転換 (財)大井積善会設立
	18	1943	中之島公園で出陣学徒合同壮行式	泉尾警察署を大正警察署と改称 大正保健所業務開始
	19	1944	学童疎開始まる	市電、小林町↔新千歳間運転を休止
	20	1945	8次に及ぶ大阪大空襲・市内被災者は120万人以上 終戦	南恩加島小学校児童、疎開先の徳島県で16名 焼死(十六地蔵) 大阪大空襲(3/13. 6/1. 6/15)で区の大半焼失。被災者約55000人
	21	1946	枕崎台風来襲 【大阪市人口172万人】 国民学校で給食再開 昭和南海地震 M8.0	8月【大正区人口約1万人】 10月【大正区人口28500人】 大正区復興委員会結成 大正区選挙管理委員会設立 区商店会連盟結成 大正区水防団結成 (財)皓養社設立
	22	1947	南海ホークス誕生 戎橋松竹座開場 角座、再築・開業 【大阪市人口156万人】	新制中学校(大正東・大正中央)発足 三軒家西幼稚園設立 遺族会大正区支部結成 大正区医師会発足 大正防犯協会結成 大阪港復興計画で大正内港化決定 区画整理事業『難波島工区設計』認可 (昭和36年、換地処分公告)
	23	1948	大阪市消防本部発足 新制高校発足	大正区防火協力会結成 男女共学により、女子高・泉尾高校が男子校・今宮高校と交流
	24	1949	大阪市PTA結成大会 大阪市教育委員会発足 大阪市立大学設置 近鉄パールズ誕生	大正区民生委員協議会設立 体育厚生協会・大正区支部設置 大正区日赤奉仕団発足 大正交通安全協会発足 大正区PTA協議会発足
	25	1950	ジェーン台風、大阪上陸 朝鮮動乱 大阪球場開業 【大阪市人口195万人】	台風被害・区域の83%が浸水。被災者57000人(人口の96%) 西大阪総合高潮対策事業着手(昭和30年完成) 港湾地帯整備事業の大正地区南部工区設計認可(平成6年度、換地処分公告) 大正橋公園・泉尾公園開園 泉尾球場開設

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	26	1951	サンフランシスコ講和会議 関西電力設立 大阪共同募金会発足 毎日放送・朝日放送開局 大阪埠頭倉庫(株)設立	区画整理事業三軒家工区設計認可 (昭和62年度、換地処分公告) 済生会泉尾病院開設 大正区社会福祉協議会結成 大正区女性団体協議会結成 区内最初の老人クラブ「千島鶴亀会」発足 大正区「母と子の共励会」発足 社団法人大正工業会設立 尻無川、境川運河以北埋め立て
	27	1952	大阪沖縄県人会連合会結成 大阪読売新聞創刊	区保護司会発足 傷痍軍人会大正区支部発足
	28	1953	市営トロリーバス開業	区福祉事務所発足 鶴町中央公園開設
	29	1954	NHK大阪中央放送局テレビ放送 開始	市バス、船町 ⇄ 大阪駅前間を運行 市電・鶴町車庫、盛り土のため閉鎖
	30	1955	第3次市域拡張 【大阪市人口254万人】	カーフェリー、船町 ⇄ 平林間運行を開始(～48年まで)
	31	1956	政令指定都市制度発足 通天閣再建・開業	平尾小学校開校 大正区更生保護女性会結成
	32	1957	上方落語協会結成 ナンバ地下センター開業 ごみ収集パッカー車、試用開始	大正区市場連合会結成 大正区老人会連合会結成 市バス、西船町 ⇄ あべの橋間を運行 大正西中学校開校
	33	1958	南港埋立起工式 関西テレビ開局	大正工業会若葉会創設 三軒家川、紡績大橋まで埋立 淀川左岸事務組合発足 三軒家球場開設
	34	1959	四天王寺五重塔、再建竣工 市内防潮堤竣工式 伊勢湾台風来襲	青少年指導員連絡協議会創設 三軒家防潮水門完成 南恩加島抽水所完成 鶴町・福町、盛土完成
	35	1960	司馬遼太郎、直木賞受賞 難波宮址顕彰会発足 【大阪市人口301万人】	大正区子供会連合協議会結成 三軒家公園に「近代紡績工業発祥の地」石碑設置 大正産業会館完成
	36	1961	国民年金・国民健康保険制度発足 地下鉄中央線、弁天町 ⇄ 大阪港間 を開通	大正駅開設 国鉄・天王寺 ⇄ 西九条間、環状線開通 台風のため鶴町・福町全域冠水。その後、防潮堤嵩上げ実施
	37	1962	第2室戸台風来襲 阪神高速道路公団発足 千里ニュータウン町びらき	水道局、大正サービスステーション開設 大阪大正ライオンズクラブ創設
	38	1963	名神高速道路開通 日米間テレビ宇宙中継実験	区制30周年記念祝賀会 大正公害防止会発足 大正区ふたば会設立 千島下水処理場完成

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	39	1964	東京オリンピック開催 東海道新幹線開業	大阪環状線一周運転開始 大正区緑化推進本部発足 大正消防署改築
	40	1965	弁天埠頭、供用開始 【大阪市人口315万人】	大阪臨港地区指定 鋼材埠頭、供用開始 鶴町南公園開園 【大正区人口95000人】
	41	1966	いざなぎ景気 泉北ニュータウン着工 NHK朝の連続ドラマ「おはなはん」放送	工業用水道給水開始 水道大正幹線敷設
	42	1967	阪神高速環状線開通	大正第1突堤、供用開始。大阪海運事業協同組合が運営 大正区内市電廃止 交通局鶴町営業所発足
	43	1968	日本、GNP世界第2位	南恩加島公園開設 鶴町北公園開園 大正運河埋立開始(45年終了)
	44	1969	東名高速道路全通	千島計画発表
	45	1970	天六ガス爆発事故 日本万国博覧会開催 地下街「虹のまち」開業 船場センタービル完成 新御堂筋道路全通 【大阪市人口298万人】	国道43号線、阪神高速・西大阪線開通 木津川・尻無川両防潮水門完成 千島公園植樹式 小林公園開園 小林改良地区指定(53年に住宅完成) 大正地区BBS会結成 【大正区人口89000人】
	46	1971	大阪市消費者センター開設 大阪南港にフェリー埠頭開設	区内初の老人憩いの家、鶴町福祉会館完成
	47	1972	沖縄返還 千日デパート火災 敬老優待乗車証交付開始	区内木材業者の住之江移転完了 大正区合同庁舎完成 大正区食生活改善推進協議会設立 身体障害者団体協議会設立
	48	1973	第1次石油ショック	千本松大橋完成
	49	1974	大阪市26区制実施 港大橋・南港大橋開通	小林小学校開校 千島体育館開設 市バス、急行運行開始
	50	1975	第一回サミット開催 沖縄海洋博覧会開催 大阪市地域振興会発足 【大阪市人口278万人】	第1回区民まつり 大正区地域振興会発足 大正内港化による拡幅・浚渫工事完了 鶴町社協「老人食事サービス」「友愛訪問活動」の事業開始 【大正区人口88000人】
	51	1976	大阪駅前「マルビル」オープン 大阪ビジネスパーク事業認可 難波宮跡の一般公開開始	千島公園開園 千島計画完了 老人福祉センター・勤労青少年ホーム開設
	52	1977	静止衛星ひまわり打ち上げ	大正区住居表示実施 大正区政協力会結成
	53	1978	大阪市総合計画策定 なんばCITY開業	大正高校・大正北中学校開校 人権啓発推進協議会発足 体育指導委員協議会創設

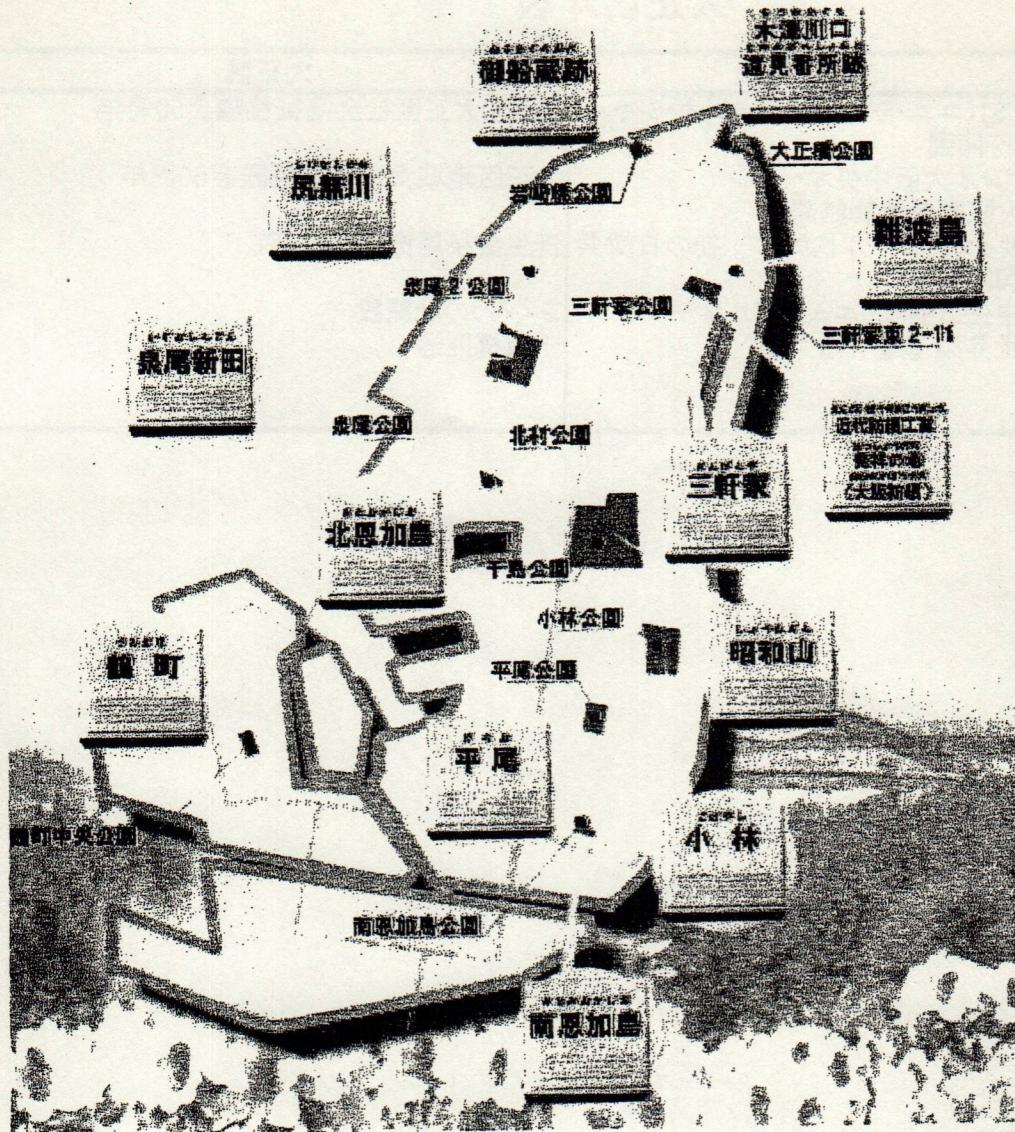
大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	54	1979	東京サミット開催 南港に人工海水浴場開設	大正通の拡幅完了 千島公園と泉尾公園を結ぶ緑陰道完成
	55	1980	上本町ハイハイタウン開業 地下鉄谷町線、天王寺↔八尾南間を開通 【大阪市人口265万人】	鶴浜小学校開校 小林斎場改築完成 環境事業局新大正工場完成 【大正区人口84000人】製造品出荷額市内7位
	56	1981	ニュートラム開業	花と緑のまちづくり推進委員会創設
	57	1982	大阪21世紀協会設立 市立東洋陶磁美術館開館	大正区制施行50周年記念式典 難波島渡し廃止 平尾公園開園
	58	1983	大坂城築城400年まつり開催 大坂城ホール完成	「昭和山コーポ」地鎮祭 泉尾連合商店街アーケード完成
	60	1985	阪神イガース戦後初の日本一 インテックス大阪オープン 【大阪市人口264万人】	大正区まちづくり計画推進会議発足 (財)大正区コミュニティ協会設立 【大正区人口82000人】
	61	1986	大阪市庁舎竣工	北恩加島工業団地竣工
	62	1987	大阪市の花をさくら・パンジーと制定	大正区の花を「つつじ」と制定 特別養護老人ホーム「大正園」竣工
	63	1988	瀬戸大橋開通 南海、阪急球団譲渡決定 市公文書館開館	新バスシステム運行開始 寝たきり予防推進協議会発足
	元	1989	市制100周年	市制100周年区民フェスティバル開催
	2	1990	24区制(新北区・中央区)発足 国際・花と緑の博覧会開催 【大阪市人口262万人】	鶴町福祉社会館「子供の家」開所 【大正区人口81000人】
	3	1991	新婚世帯向家賃補助制度実施 大阪市高齢者総合相談情報センター開設	地域ネットワーク委員会設立 マリンテニスパーク北村オープン
	4	1992	リフト付市バス運行開始 東海道新幹線に「のぞみ」登場	大正区手をつなぐ親の会設立 大正警察署新庁舎落成
	5	1993	大阪市生涯学習大阪計画発表 大阪市立大付属病院新築	大正区社会福祉協議会法人化 大正区ボランティアビューロー開所
平成	6	1994	弁天町市民学習センター開設 関西国際空港開港	区役所全土曜日閉庁実施 大正消防署泉尾出張所開設
	7	1995	全市で資源ごみ収集実施 大阪WTC開設	新木津川大橋開通 平尾商店街アーケード完成
	8	1996	大阪オリンピック招致推進会議 【大阪市人口260万人】 みおつくし総合ネット開始 大阪プール・鞠テニスオーブン	なみはや大橋開通 大正区在宅サービスセンター(ふれあい福祉センター)開設 【大正区人口78000人】 大正西地域サービスステーション開所
	9	1997	テクノポート線開通 大阪ドームオーブン	シルバークレイン開所 『区民だより』創刊
	10	1998	クリスタ長堀開業 高度浄水処理水、通水開始	地下鉄鶴見緑地線開通、大正駅開業 JR大正駅リニューアルオープン
	11	1999	舞洲陶芸館開館 大阪オリンピック招致委員会設立	大正やすらぎ会館開館 青少年育成推進会発足 新大正区民音頭発表
	12	2000	介護保険制度開始 なにわの海の時空館開館 【大阪市人口260万人】	アゼリア大正(文化交流プラザ)開館 平尾公園会館開館 大正東地域サービスステーション開所 大正区生涯学習推進区民会議設立 【大正区人口75000人】

大正区年表

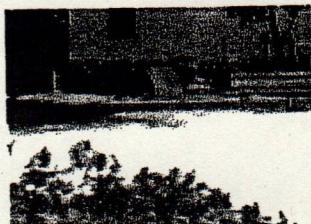
年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
平成 13	13	2001	USJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)開園 クレオ大阪中央オープン 大阪歴史博物館開館	(社福)大正区社会福祉協議会50周年 大正区地域女性団体協議会50周年
	14	2002	サッカーワールドカップ、初の日韓共同開催 中央公会堂リニューアルオープン	済生会泉尾第2病院開院
	15	2003	世界柔道選手権大会	ふくろうの杜開設 千歳橋開通

大正区内の史跡といわれ



■ 御船藏跡 (おふなぐらあと)

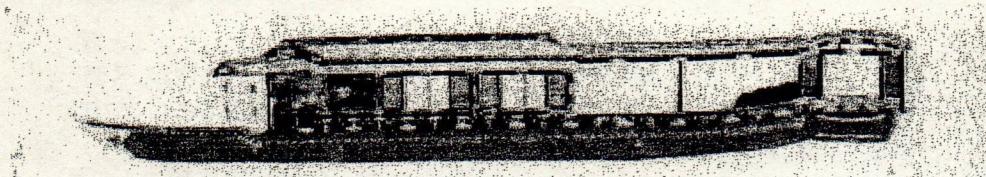
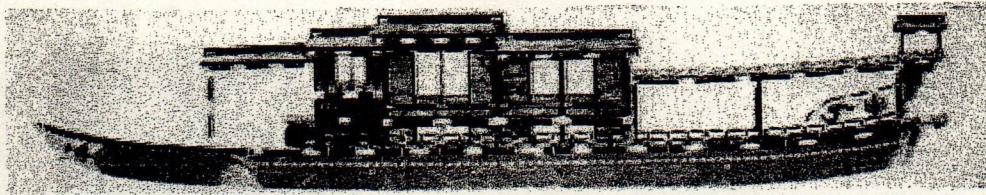
設置場所 … 岩崎橋公園



三軒家地域は、豊臣時代から開発者の中村(木津)勘助の名前をとって、勘助島(かんすけじま)と呼ばれていました。江戸時代には「御船藏」と「木津川口遠見番所(きづかわぐちとおみばんしょ)」が設けられ、御船藏は岩崎橋公園附近(現在地)、番所は大正橋公園附近(現在地の東方)にありました。

「御船藏」は幕府の官船等を納める施設で、文書や地図にも記録されています。当地の御船藏が藏した官船名は明らかではありませんが、幕府の「川御座船(かわござぶね)」には紀伊国丸(きのくにまる)や土佐丸(とさまる)等の名前が見られ、漆塗りの屋形を持ち、金銅の金具をつけて豪華な装飾を施され、櫓(ろ)と棹(さお)で航行する川船でした。明治23年発行の大坂実測図にも跡地に「字船屋舗(あざふなやしき)」の文字が見えます。大正9年に開削された岩崎運河にも敷地の一部が取り込まれました。

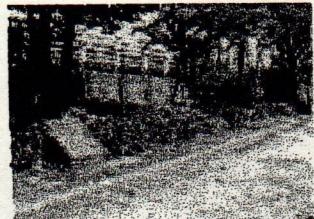
なお、公園北側の環状線の擁壁面には、「昭和3年の道路開通記念碑」が埋め込まれています。



船頭座船（しらべりゆせん）（官派奉公船） 船首に鹿島氏艦

■木津川口遠見番所跡（きづかわぐちとおみばんしょあと）

設置場所 … 大正橋公園



木津川は大坂の経済を支える大動脈として諸国の船の出入りで賑わいました。当地は、昔、「姫(ひめ)島」と呼ばれておりましたが、義民として名高い中村(木津)勘助が、慶長15年(1610年)に豊臣家のために軍船係船所の建設や船着場の整備等を行い、その功により「勘助島(かんすけじま)」と名付けられました。

江戸時代になって、幕府は宝永5年(1708年)に「木津川口遠見番所」を現在地に設けました。また、西方には幕府の官船等を収容する「御船藏(おふなぐら)」(岩崎橋公園附近)がありました。

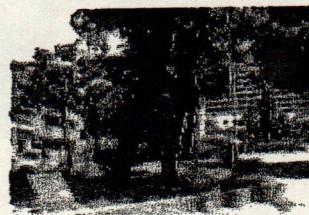
大阪の島と言われた当地と都心をつなぐルートとして、大正4年(1915年)市電開通とともに架けられた大正橋は、当時わが国最長のアーチ橋で、当区名の由来ともなっております。新橋が昭和49年に完成、下流側の高欄には、ベートーベンの交響曲第9番「歓喜の歌」の楽譜がデザインされています。

なお橋の東側にある「安政津波遭難者供養碑(あんせいいつなみそうなんしゃくようひ)」は、安政元年(1854年)に木津川一帯を襲った安政の大津波の惨状を述べるとともに、最後に「後人の心得…願わくば心あらん人、年々文字読み安きよう墨を入れ給うべし」と記しており、大阪人の心情を表しています。



■三軒家(さんげんや)

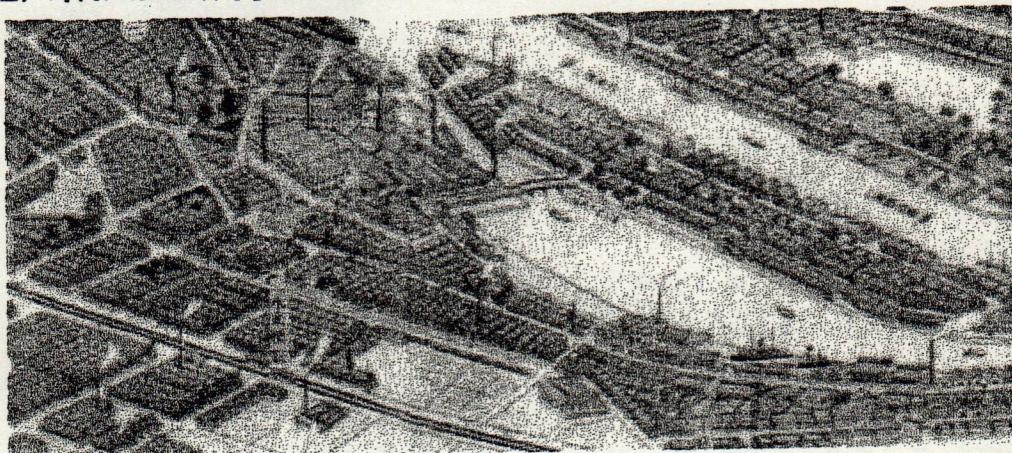
設置場所 … 三軒家東公園



延宝3年(1675年)に出された、大坂の名所案内書である「芦分船(あしわけぶね)」によると家数の少なさから「三軒屋」と名付けられた当地も「次第に人家が満々(みちみち)、軒をならべ繁栄して、旅泊の船出入繁(しげく)としており、「芦分船」が発行される少し前の明暦3年(1657年)には当地での「川口遊里」が禁止されるまでになっています。

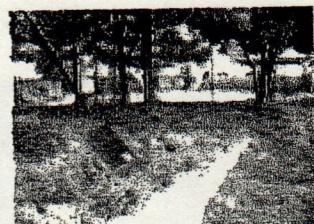
貞享元年(1684年)に天満組替地(てんまぐみかえち)となり、当地の一部は大坂三郷(さんごう)に入りました。幕府の「木津川口遠見番所(きづかわぐちとおみばんしょ)」や「御船蔵(おふなぐら)」が置かれ、摂津名所図会(せつつめいしょずえ)にも「千石・二千石の大船、水上に町小路を作りたる如く舳先(へさき)には船の名、家々の紋付けて其国をしらせ、風威の順不同・潮時の満干を考えて出帆あり着船あり」とし、薩摩(さつま)(現鹿児島県)・日向(ひゅうが)(現宮崎県)船の着船の記録も見えます。北国航路の和船係留地であった木津川には和船が1000艘以上にもなったので、明治14年(1881年)には三軒家川を開削、「船囲い場(ふながこいば)(178,000m²)」を現在の三軒家東3丁目に開設しました。その名残りが今もあります。

(江戸時代には「三軒家」は「三軒屋」と表記されることが多かった。)



■尻無川(しりなしがわ)

設置場所 … 泉尾2公園

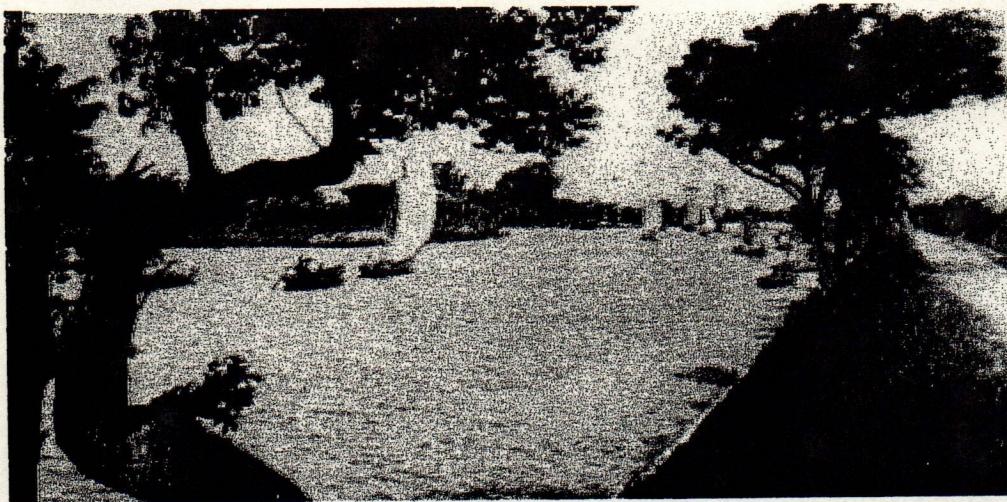


江戸時代、尻無川は今の大阪ドームの場所を通り、西区江之子島まで達していましたが、大坂市中の遊興の地であり、文久3年(1863年)の「浪華の賑ひ(なにわのにぎわい)」によれば「此堤に黄櫨(はぜ)多く列なれり。紅葉の頃は錦色川水に映じせん望(遠く見渡すこと)又類ひなし。又春やよい弥生の潮干にははまぐり蛤、しじみ蜆を取らんとして来る人おびただ夥し」とあります。

また、摂津名所図会(せつつめいしょずえ)にも鯛(はぜ)つり釣を楽しむ人々の姿が活き活きと描かれている絵があります。

また、尻無川は、「唐人溝(とうじんみお)」とも呼ばれ、朝鮮通信使(ちょうせんつうしんし)の通る水路ともなっていました。これは、尻無川には幕府の御番所や御船蔵があつたためです。

宝暦14年(1764年)の第11回の際には塩飽島(しあく)(香川県)の水主(かこ)3,500人の加勢を得て紀伊国丸(きのくにまる)等の幕府の船や諸侯の川御座船が黄金張りで華麗な屋形を設け尻無川の河口から上陸地点の北浜までの川筋を遡(さかのぼ)る姿を、人々は川の両岸に詰めかけ見学したようです。



■ 泉尾新田（いずおしんでん）

設置場所 … 泉尾公園



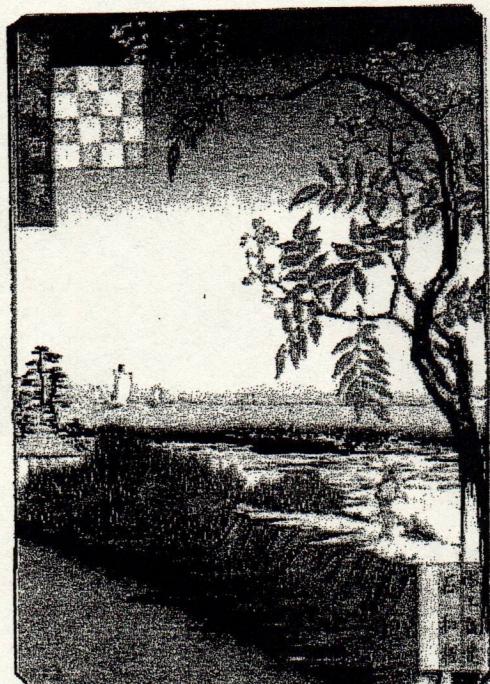
元禄15年(1702年)に検地を受けた「泉尾新田」は和泉(いずみ)国踞尾(つくの)村の北村六右衛門(きたむらろくえもん)が元禄11年(1698年)に開発に着手し、もとは三軒家浦新田と称していましたが検地を受ける時に、北村氏の出身の国名と村名から一字づつをとり「泉尾新田」と名付けました。二重の堤をめぐらし、沖堤は尻無川と三軒家を結ぶ、高さ9mの堤防で、現在の尻無川防潮水門から北村公園(一部、今でも堤跡の斜行道路が見られます)の北側を通り、千島バス停を越え、泉尾東小学校の南側を通っていました。中堤は泉尾工業高校の北側を通り泉尾東小学校まで、高さ5.4mの堤防で、沖堤と中堤の間は水田、中堤の中は畑でした。

面積は、明治初期にはその後の開発も併せて125町の大新田となりました。新田内は「井路(いじ)」と呼ばれる用水路が縦横にはりめぐらされ、かんがいや排水、舟運による運搬路となりました。

宅地は尻無川沿い(北泉尾)と三軒家村西側(南泉尾)の2ヶ所45戸だけで、縹渺(ひょうびょう)たる農地が広がっていました。作物は棉(わた)と西瓜(すいか)が良く獲れました。

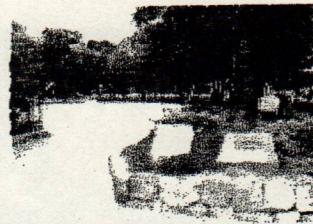
また、新田の事務を行うために、南泉尾(現在の三軒家東5丁目附近)に瓦葺の立派な「会所(かいしょ)」を置きました。

明治時代になり北村六右衛門が破産処分を受け、負債償却を目的に設立された土地会社の所有になりました。



■ 平尾(ひらお)

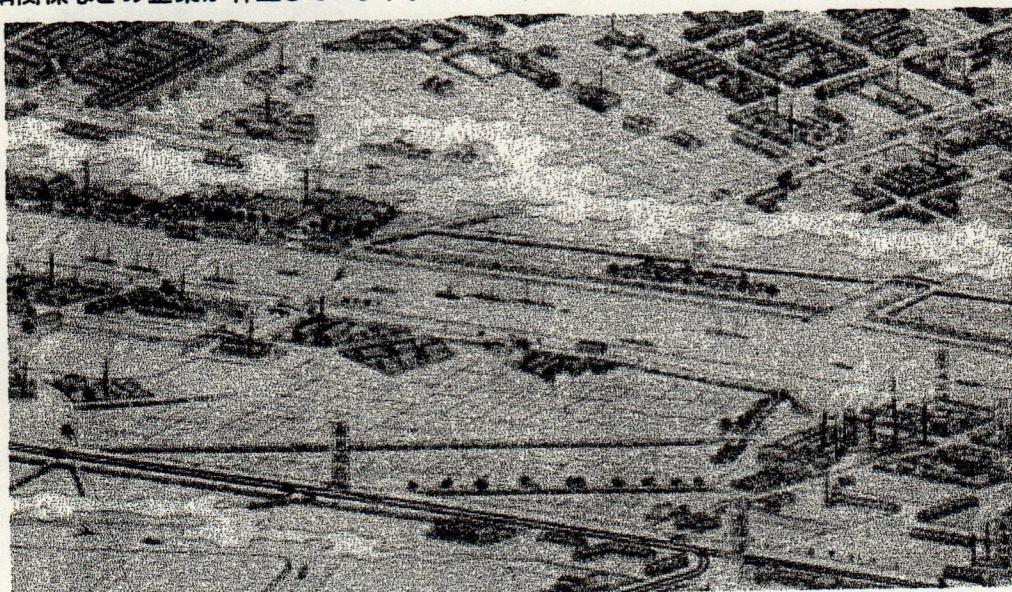
設置場所 … 平尾公園



平尾新田は、千島新田の南にあり、もと木津川河口の寄州(よりす)でした。宝暦7年(1757年)、岡島嘉平次(おかじまかへいじ)が新田開発の許可を受けましたが、その一部を大坂江戸堀(現西区)の平尾与左衛門(ひらおよざえもん)が譲り受け、明和8年(1771年)検地を受けました。天保10年(1839年)発行の大坂湊口新田細見図(おおさかみなどぐちしんでんさいけんず)によると、所有者は三軒家町の堺屋藤兵衛となっています。

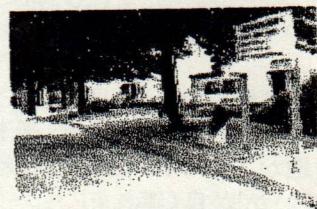
木津川は江戸時代から諸国の回船が多く集まり「木津川二十四浜」と称せられ、川口港化してきました。各浜では諸国の大船から二十石積の上荷船(うわにぶね)等へ荷物を積み換え、市中の問屋へ運びました。二十四浜のうち大正区には、勘助島浜、三軒家浜、難波島浜、落合浜等があり、浜ごとに上荷船の所属は決まっていました。木津川口の「川口浚(さらえ)」は交易で賑わう大坂の街にとっては不可欠なもので、大坂に入津する船から「石銭(こくぜに)」を徴収し、「水尾浚(みおさらえ)」を度々行っていました。また、難破船救助の奨励を行っており、「シケ」の場合も高張提灯を掲げ、上荷船による救助を行えるよう手当等を与えていました。

大正時代になると木津川沿いには水運至便の地という恵まれた条件をいかして造船所が集中し、大小合わせて50社を数えました。現在でも三軒家東から船町にかけての木津川沿いには鉄鋼関係などの企業が林立しています。



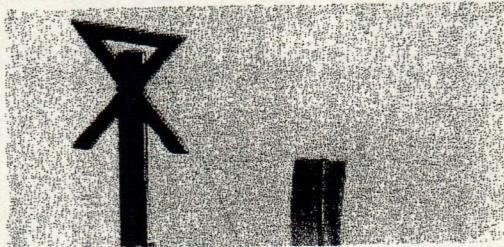
■ 南恩加島(みなみおかじま)

設置場所 … 南恩加島公園



恩加島新田は、もと木津川河口の寄州(よりす)でしたが、東成(ひがしなり)郡千林(せんばやし)村(現旭区)岡島嘉平次(おかじまかへいじ)が開発を始め、文政12年(1829年)に検地を受けました。名称は当時の代官岸本武太夫の命で「岡島」を「恩加島」と換用したものです。

恩加島新田のうち、北側が「北恩加島新田」、南



側が「南恩加島新田」となりました。

嘉永4年(1851年)発行の「浪華の賑ひ(なにわのにぎわい)」によれば南恩加島を含む木津川口を挿絵入りで紹介しており、「此所は浪花の津の湊口にして諸国の海船出入の要津にかかるゆえに、廻舟の便利よからしめんが為、去る天保3年(1832年)…870間余(1500m余)の石塘(いしづみ)を築き…實に万代不朽にして浪花繁栄の基…又此堤は上に数株の松を植えづらねり、故に俗に木津川の千本松という。洋々たる滄海に築出せし松原の風景は彼の名に高き天の橋立、三保の松原なども外ならずと覚ゆ」と記されています。

嘉永7年(1854年)ロシアのブチャーチンが乗船するディアナ号が大坂に来た時は、木津川沿岸には紀州兵など2600人や43隻の番船を浮かべるなど沿岸警備が行われました。また、將軍家茂が文久3年(1863年)に大坂の海岸部を巡視した時の木津川口の守備は土佐藩が行っておりました。

■ 難波島(なんばじま)

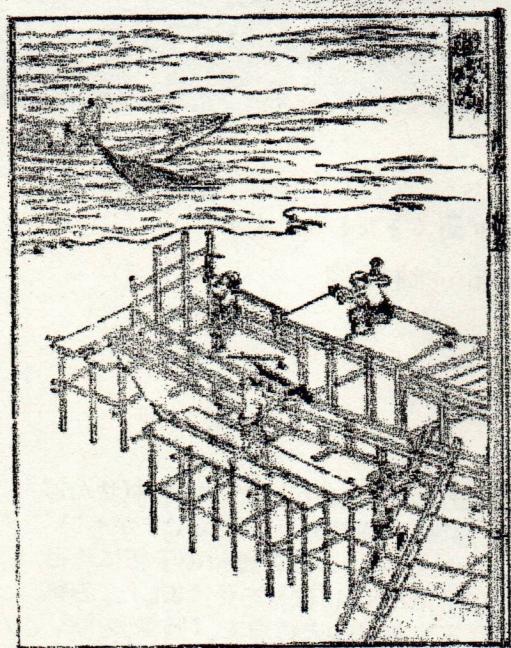
設置場所 … 三軒家東2-11内



江戸初期の名所案内書である「芦分船(あしわけぶね)」によれば、「(難波島は)難波につづきたる所也。昔日難波の住人ひらきし所なれば此島の名とするにや」とあり、挿絵として船造りの風景を載せています。その後、元禄12年(1699年)に木津川の流路を一直線にするため河村瑞賢(かわむらずいけん)により島の中央部が開削され難波島は東西に分れ、東側を「月正島(がっしょうじま)」(浪速区)と呼び、西側を「難波島(なんばじま)」と言うようになりました。「摂津名所図会大成(せつめいしょぞえたいせい)」には「此地船大工職多く常に海船を作事す」とあります。木津川交通の要衝として発展し、当地にはかが加賀(現石川県)国等の船宿が見られ、北前船(きたまえぶね)が着船し、二十石積の上荷船(うわにぶね)が86艘あったとされます。

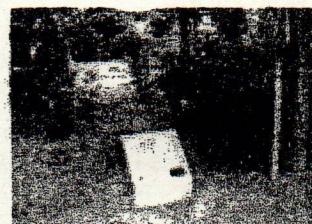
難波島の西側の三軒家川は一部埋め立てられ、百濟橋(くだらばし)は廃橋になりましたが、橋の一部は隣に残されています。大正中期には造船所15社が集中し、現在も工場群となっています。

す。島の南端には「木津川防潮水門」と「三軒家水門」があり、防災拠点となっています。



■ 小林(こばやし)

設置場所 … 小林公園



小林新田の由来は、東成(ひがしなり)郡千林(せんばやし)村(現旭区)の「岡島嘉平次(おかじまかへいじ)」が開発し、天保3年(1832年)に検地を受け、出身地の千林村の「林」をとって「小林」と名付けたものです。

戦前、当区にあった木材街は、西区の西道頓堀・西長堀等の木材業者が大正6年ごろに集団移転してきたもので、業者が連合して運河・貯木場などの工事をを行い、小林町・千島町一帯は西日本有数の木材市場になりました。貯木池は大正運河を中心に広がり、その周辺に製材所、合板工場、貯木場、木材市場などが混在していました。木材関係者の面積は区域の約1割を占めていましたが、戦後の大阪港復興計画による大正内港化工事により、木材関係者は昭和27年から46年にかけて、平林貯木場(現住之江区)へ移転しました。

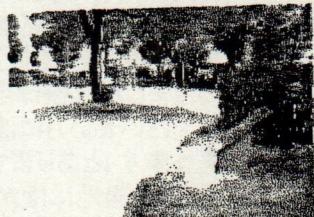
また、大正内港化工事により、尻無川左岸に近代的な鉄鋼埠頭が完成し、大正第一突堤は、内国貿易雑貨定期船の基地、第二突堤は小型船バースとなりました。また、第一突堤北側には、内港はしけ桟橋(さんばし)などが整備されました。

工事で発生した土砂は、区内の臨港地区とその背後に送られ全面盛土による区画整理が施工され、市街地の近代化に貢献しました。



■ 北恩加島（きたおかじま）

設置場所 … 北村公園



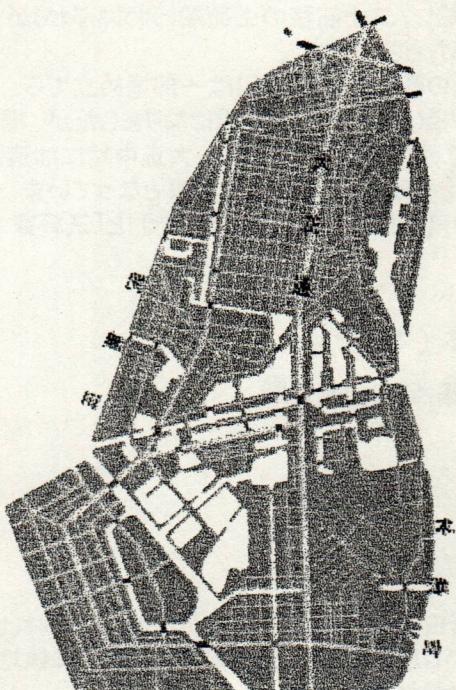
恩加島新田は、東成(ひがしなり)郡千林(せんばやし)村(現旭区)の岡島嘉平次(おかじまかへいじ)が、木津川と尻無川の間の浅州の干拓に着目し、文政12年(1829年)に検地を受けました。名称は当時の代官岸本武太夫の命で、「岡島」を「恩加島」と換用したものです。

恩加島新田のうち北側が「北恩加島新田」、南側が「南恩加島新田」となりました。

北村公園の「北村」は、泉尾新田の開発者「北村六右衛門」に由来しています。

《大正区の思い出の橋》

大正区の区域は新田開発により成り立っているため、運河や用水路がいたるところに張り巡らされていましたが、区画整理事業などで、そのほとんどが消滅しました。区内中央部の運河周辺に特に多かつたので、その昔の橋の名前だけでも残したいと右の図にその一部を紹介します。



■ 昭和山（しょうわざん）

設置場所 … 千島公園

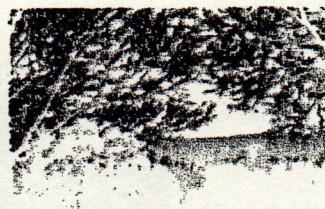
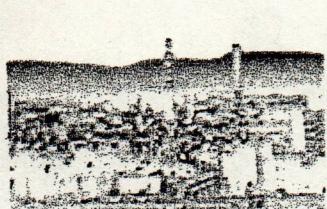
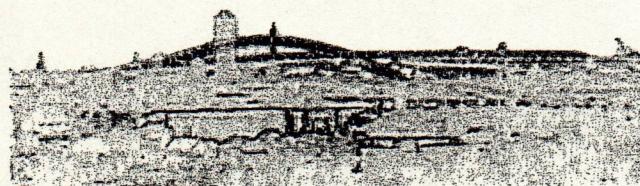


千島(ちしま)新田は、東成(ひがしなり)郡千林(せんばやし)村(現旭区)の岡島嘉平次(おかじま かへいじ)により、明和5年(1786年)から順次開発されました。地名は千林村の「千」と、姓の岡島の「島」をつなぎ合わせて「千島新田」と命名されました。

大正時代の千島町一帯は西区から移転してきた木材業者により、関西随一の木材市場となり、木材の集積のため、木津川と尻無川を結ぶ大正運河(延長1,963m・幅45m)が大正12年に完成しました。住之江区の平林貯木場へ移転するまで、この運河を中心に貯木池として利用されていました。

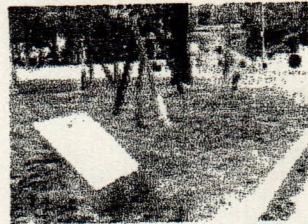
昭和44年9月に発表された「千島計画」は、区のほぼ中央、もと大正運河や貯木池のあった千島町一帯に「港の見える丘」を造るという大規模な計画でした。この人工の山は地下鉄工事の残土など、約170万立方メートル(ダンプカー57万台)の土砂で造られ、標高33mで「昭和山」と命名されました。

千島公園(11.2ha)の中心に位置するその頂上からは、六甲(ろっこう)や二上(にじょう)、葛城(かつらぎ)、金剛(こんごう)、和泉(いいずみ)の山並みとともに港大橋、なみはや大橋、千歳(ちとせ)橋、新木津川大橋、千本松大橋などが眺められ、麓には「せせらぎ」も整備され、その恵まれた自然是区民の憩いの場となっています。



■ 鶴町(つるまち)

設置場所 … 鶴町中央公園



鶴町地域は、市の築港計画(明治30年～昭和3年)による埋め立てによって造成され、大正8年3月、「鶴町」「鶴浜通」「ふく福町」という新しい町として誕生しました。

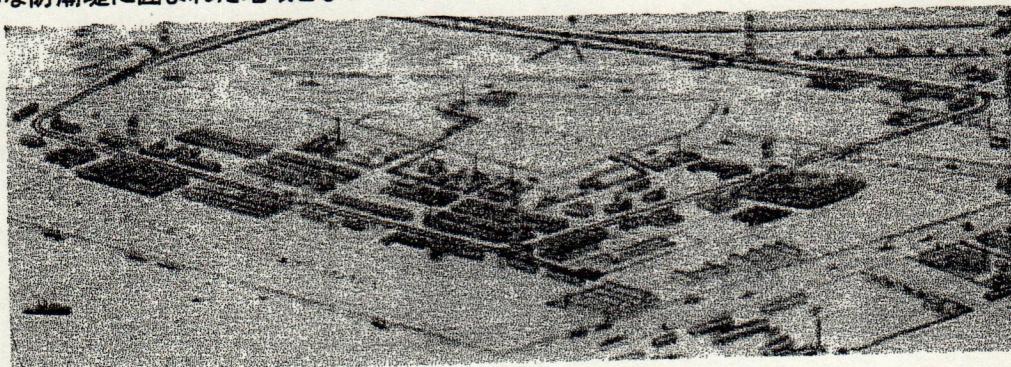
鶴町の町名は聖武天皇(しょうむてんのう)の「難波宮(なにわのみや)」の近くの光景を「田辺福麻呂(たなべのさきまろ)」が詠んだ「潮干れば葦辺に騒ぐ白鶴(百鶴とも)の妻よぶ声は宮もとどろに」(万葉集卷6-1064)から「鶴」を、また福町は、この詠者の「福」からとられたものです。

昭和51年の住居表示により、鶴浜通は鶴町1～4丁目に、福町は現在の鶴町5丁目となりました。

鶴町地域は運河や内港に面していることから、外資系自動車工場や日本とアメリカの間に海底ケーブルを敷設した会社や橋梁会社等の工場や倉庫が立ち並ぶ臨海工業地帯として、また職場と住宅が近接した地域として発展してきました。

鶴町には、昭和5年から11年まで中央気象台大阪支台が設置され、昭和9年の室戸台風も観測していました。

昭和25年のジェーン台風以降に港湾事業や土地区画整理事業が並行して進められ、現在のような防潮堤に囲まれた地域となっています。



■ 近代紡績工業発祥の地(きんだいぼうせきこうぎょうはっしょうのち) (大阪紡績(おおさかぼうせき))

設置場所 … 三軒家公園

明治16年7月に、東京・大阪の実業財界人渋沢栄一(しぶさわえいいち)や藤田伝三郎(ふじたでんざぶろう)らが出資した大阪紡績会社(通称:三軒家紡績)が、当地「三軒家(さんげんや)村」で操業を始めました。この大阪紡績会社は大正区の近代工業を飛躍的に発展させ、大阪の紡績業を日本一に押し上げる原動力となりました。

三軒家村は古くから船着場としてにぎわい、石炭や原料の綿花の搬入や製品の運搬に便利なため選ばれたといわれています。

操業間もなく夜業を始めましたが、明治19年に発電機を購入し、初めてあかあかと電灯がともり工場全体が不夜城のように浮かびあがり、各地から電灯の見学者が殺到しました。工場はまたたく間に拡大発展し、業界に傑出した地歩を確立しました。

明治20年代には、当地を中心にして数多くの紡績、織維会社ができ、日清戦争から日露戦争時代にかけて大阪は「東洋のマン彻スター」と呼ばれるにふさわしい発展をとげました。

その後、大正3年、昭和6年に他社と合併して世界最大の紡績会社に発展しましたが、戦争激化とともに軍需工場に転換させられ、昭和20年3月の大空襲で焼失しました。

